



かなであん

249-0002 逗子市山の根1-7-24

Tel : 046-871-1863 Fax : 046-872-3485 HP : <http://kanadean.net>

後生の一大事

「終活」がブームになっているという記事が、新聞の社会面を大きく割いて載せられています。

就職するための活動が「就活」とよばれ、関連産業が生まれ、結婚難から「婚活」とよばれるものが一種のイベントのひとつになり、そして、死の準備までが活動と表されるものとなってブームになっています。

これら「〇活」とよばれるものは、いずれも一人の人間が人生を全うするための大変重要な事柄です。このブームがそれらにしっかり向き合うようになるきっかけになっているとしたらよるこばしいことですが、関連商業のベースに乗り、カルチャー現象になっていることには抵抗を感じます。

* * *

以前の社会形態の中では、他人が善くも悪くも関わり、当事者にとってはときに理不尽なほどであっても、日頃からの心構えや、いざという時の後押し

になっていた事実があります。

今の「終活」ブームから感じられるのは、家族形態や地域社会の著しい変化から、従来の慣習に従って遂行するのを精神的にも物理的にも重荷と感じ、そういう煩わしさや負担を解決しておくことに重きをおいているということです。

* * *

戦後の日本は宗教や死をタブー視し、経済を追い求め国力もつけました。しかし、そのバブルも崩壊し、相次いで巨大地震にみまわれ、時代はそれに重なるように、高齢化、少子化、非婚化社会が進んでいます。その現状が、生死を医療に頼ることの価値観の危うさに気づかせてくれたとも言えます。このことが、誰にも必ず訪れる死、そして人生そのものである生死観を問うようになり、「死」を避けて自然に向き合うようになっていけばと思います。

「終活」というものを行うとすれば、死の準備だけに終わらず人生を通しての総括でなければなりません。ただ、迷惑をかけたくない、こうしてほしい、あれは嫌だなどの感情（勘定？）論に留まっていたなら、その活動は完結

したものとは成らず、悔いを残すものとなりかねません。

物事を考え直したいと思うときには、まずそのものの本来の意味をしっかりと見つめ直すことから始めなければなりません。そして、正しい方向に向かってこそその目標を達成します。

死を思うとき、誰もが思うのは「死んだらどうなるのか」だと言われています。どの民族、どの宗教であっても、人間は生物的な「生命」だけではない他の「いのち」というものに救われてきたということに立ち返る必要があるのです。

お葬式で拝読する「白骨のご文章」は、……人間のはかなき事は老少不定のさかひなれば、たれの人も、はやく後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏をふかくたのみまゐらせて、念仏まうすべきものなり……と、私たちが生かされている今すでに、お浄土に往生して生まれることが正しく定まり、必ず悟りを開いて縁ある人にはたらきかける仏になることが決定された身であることに気づかされます。

「いのちがどこから来て、どこへいくのか」、気づかせていただくのは、お念仏を申さんと思う時、その時、”今でしょう”

合掌

案内
奏庵法座
『秋のお彼岸会』

日時
9月26日(木)
午前11時～

「真宗宗歌」
阿弥陀経
法話
(住職)
ご文章拝読
「恩徳讃」
～*～
おとき

厳しかった夏もようやく峠を越し、秋の気配が増すたびに夏の疲れが少しづつ癒やされていくようです。皆さまにはお変わりなくお過ごしでしょうか。

前回のご法座の折には「これで見納めになるかも……」とご心配いただいた20歳になる老犬も、まだいのちをいただいで、そのとぼとぼと老いを生きる姿にも、考えさせられ気づかされる思いです。

永代経に続いての彼岸会ですが、どうぞお参り下さい。



ひとつのことを聞きて、いつもめずらしくはじめたるように、信の上にはあるべきなり。

ただめずらしきことを聞きたく思うなり。

ひとつのことをいくたび聴聞申すとも、めずらしくはじめたるようにあるべきなり。

蓮如上人御一代聞書より



お知らせ

ご法座の前の「正信偈」の練習は、今月も予定通り行います。10時頃からはじめますが、ご都合で途中からでも、お気軽にご参加下さい。

廣松

招致活動が実って、2020年オリンピック東京開催が決まった。熱望していたわけではないが、決まったら決まっただけでうれしいものだ。IOC役員に気に入られることを目的としたプレゼンテーションや、精神訓的言葉に食傷気味ながらも、最初の東京オリンピックが開催された時、大人への入り口、青春時代ど真ん中だった我々にとって、それはやはり憧れや希望を抱かせてくれるものだったことは間違いなく、これから自国でオリンピックを味わう子供たちや長く低迷を続けてきた時代に育ってきた若者達に、希望のもてる明るい未来に繋がっていくことを願って、温かく見守るのが我々世代の勤めだろう。■二度目のオリンピック開催は先進国家としての証らしい。経済は中国に抜かれ、アジア諸国の新興ぶりに脅かされている日本だが、今のところアジア唯一の先進国であることに責任と自信を持ってほしいと思う。イギリス、フランスなどを見ても、経済力がすべてではないことがわかる。求められているのはその成熟度だ。それは、これ見よがしな煌びやかな贅沢で飾ることもなく、力を誇示するものでもない。しかし、あらゆる分野で洗練されていると思わせるものが備わっていなければならない。何よりそれらを洗練された所作で使いこなす国民がいることだ。■これからの日本がそれを目標に進んで行ってくれるとしたら、これほど望ましいことはない。精神的な満足か、いや経済力あつてのことだと揺れ動いていたバブル後の日本に、しっかり力強い背骨が通る。間違ってもその背骨にごてごてした贅肉を付けてはならない。■そして原発事故処理は、今も、これからも、オリンピック後も、着実に延々と粛々と処理し続けていかなければならない。ごまかしや営利優先で片付くよう安易な道はないのだ。■やらなければならないこと、やると決まったことは、やる方向に向かって進めていくことだ。貧しかったが、謙虚で遅しかったあの時代を知る我々。はしゃぎすぎず、水を差さない。それがその時代に活力をもらって生かされてきた世代の「終活」だ。

Norimaru